

地元小中学生によるオオシラビソの稚樹移植作業に参加しました

令和5年9月13日(水)、樹氷復活県民会議が蔵王国有林で開催された、地元小中学生によるオオシラビソの稚樹移植に当署職員も参加して活動のお手伝いをしました。

当日は、山形市立蔵王第三小学校から児童7名、同蔵王第二中学校から生徒1名、さらに、山形県立村山産業高等学校緑地保全コースから生徒16名、各学校の教職員、県民会議構成員等の方々が参加され、当署からも職員4名が参加し、稚樹の探索、掘取り、移植作業の実技指導をさせていただきました。

蔵王ロープウェイ樹氷高原駅前での開会式では、活動を共にするグループごとに分かれて、小中学生と活動をサポートする高校生との間で、顔合わせを兼ねた「アイスブレイク」が行われ、高校生から森林や樹氷、環境についての説明が行われていました。

参加者の皆さんは、山形平野に広がる雲海を見下ろしながら場所を移動し、稚樹を掘り取る作業を体験しました。ゲレンデ沿いに生えている稚樹を見つけると、周囲にスコップを差し入れて根鉢ごと掘り取ります。地面が固い場所もありましたが、高校生たちに手伝ってもらいながら稚樹を掘り取ることができました。

掘り取った稚樹は袋に入れ、ロープウェイで山頂駅まで運びました。山頂駅の横に設けられた移植区画で、今度は、植えるための穴を掘る作業を行いました。署員による実演を見ていた児童さんからは「パワー！ パワー！」の声援が起こり、署員も大きな元気をもらっていた様子でした。

幸い天候にも恵まれ、無事、10本の稚樹を移植することができました。参加されていた多くの報道機関から取材をされる小中高生の皆さんの応答や、行事中でのそれぞれの挨拶などを通じて、若い世代の皆さんが体験作業を通じて森林や樹氷さらには地域や環境のことを考えてくれていることに深く感心させられるとともに、行事の意義を改めて感じました。

この移植により、山頂駅横の移植区画への植栽本数は、移植を始めた令和元年度からの累計で167本となりました。参加していただいた若い世代の皆さんに、大きく育ってアイスモンスターに成長した樹氷を見届けていただけるよう、署としてもできることにしっかり取り組んでいこうと決意を新たにすることができました。



